絆 特別 増刊号
2020.6

With Corona, After Corona

外来・入院診療が本格始動！

当院は、高度・急性期医療を提供することにより、「地域に信頼される最高の基幹病院になる」ことをビジョンとしております。

今回、新型コロナウイルスのパンデミックという未曽有の事態に京都府からの要請を受け、ICUおよび一般病床において感染症受け入れ体制を整えました。多くの重症および中等症患者を受け入れ、府立医大付属病院、市立病院に次ぐ基幹病院としての任を果たすことができました。勇気をもって立ち向かってくれたスタッフとご支援をくださった皆様に心より感謝申し上げます。

さて、非常事態宣言が解除されコロナ感染も収束しつつありますので、受け入れ体制を縮小し平常業務を本格的に回復する運びとなりました。

しかし、完全な終息には長期化が予想され、“新たな様式”が求められます。当院はコロナ患者を受けいれた経験より、院内での診断体制（症状、PCR、CTなど総合的）、疑い例を含めたゾーニングなど、大きく改善されました。そして、手術・内視鏡検査・血管造影・化学療法・放射線療法など、安全な治療環境も整えました。ゼロリスクではありませんが、過度の抑制にて治療機会の損失をもたらしてはいけないと考えます。

皆様と手を携え新たな時代の医療体制を模索しながら、使命を果たしていければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

院長
池田　栄人

KIZUNA SPECIAL ISSUE

京都第一赤十字病院だより

01 新型コロナウイルス感染症を乗り越えて

この4月より、感染制御部部長に着任いたしました弓場達也と申します。小生は1999年京都府立医大を卒業、第二内科に入局、2007年呼吸器内科大学院を卒業、2013年より当院に勤務しております。昨年度までは呼吸器内科副部長を務めておりました。

着任早々、コロナ対策に邁進することとなりましたが、大野前部長が新型インフルエンザをはじめ、様々な感染管理を整えて頂いていたおかげで比較的スムーズに病院を挙げての感染対策を敷く事ができております。

Tatsuya Yumiba

感染制御部 部長

弓場 達也

元々、転院困難な結核患者や疑い患者を収容していた病棟の9個室を、すべてコロナ患者を収容できる体制とし、また総室も換気体制を改善致しました。そうすることにより、コロナ疑い患者、確定患者を確実に他の患者から隔離して収容することが可能になりました。また検査部は4月中旬から院内でコロナPCRを検査する事が可能となっており、PCRのみで判断する訳ではありませんが、疑い患者の振り分けを速やかに行える体制となっております。

まだまだ新型コロナウイルス感染症が収束した訳ではありませんので、呼吸器内科、救急部、感染制御部を中心に感染対策、診療に取り組むと共に、地域の連携病院の先生方に安心して大事な患者様を託して頂けるよう善処していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

02 当院の新型コロナウイルス感染症対応

Noriya Hiraoka

院長補佐 呼吸器内科部長

平岡 範也

2019年末に中国広東省に始まった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間にわが国でも感染拡大し、本年3月末から当院も対応に追われました。最初は帰国者・濃厚接触者相談センターや京都府感染症課、厚労省の対策推進本部等から様々な情報が時間単位で発信され、法令等の理解に難渋しながら一症例毎に半日かけて受け入れていくような手探り状態でした。当初は、結核に対して確保していた陰圧個室で対応を開始しましたが、4月に入り休日も含めて毎日のようにCOVID-19症例が入院してくる状況となり、一病棟をCOVID-19専用としました。また当院の基本方針として救命救急センターの受け入れを維持・継続することが必須課題であったため、次々に搬入される発熱症例を疑似症として隔離するため、病棟のあちこちの壁に穴をあけ換気装置をつけていきました。幸い院内感染は発生せず、感染制御部、病棟スタッフ、担当事務等の方々の献身的な協力のおかげで、5月末時点で合計25例の確定例とその倍以上の疑似症例を受け入れ、なお重症の数名の入院治療を継続しておりますが何とか一段落を迎えることができました。

当院では帰国者・濃厚接触者検査外来も併設しておりましたので、こちらの業務は外科系医師にもお手伝いしていただき、入院患者が増加してきたタイミングで院内共通マニュアルを作り、内科系のすべての医師に輪番での入院診療の協力をいただきました。また重症例の気管内挿管や気管切開といった感染リスクの高い手技には救急部や麻酔科の先生、ICUスタッフの頼もしい援助が有り難かったです。また脳梗塞を合併した際には、脳卒中科の先生にカテーテル治療でお世話になりました（家庭内感染予防のため2週間ほど自宅に帰れない日々を強いてしまいました）。

当科専攻医は、乳児のお母さんや新婚の女医さんなど、普通なら業務免除を考慮するべきメンバーが多数でしたが、率先して診療にあたってくれました。

近隣の先生方には、発熱や肺炎の入院依頼等でご迷惑をおかけした事もあるかもしれませんが、この場を借りてお詫び申し上げます。

また、市内のお店からお弁当やお菓子の差し入れ、感染防止用品をいただき、何度か折れそうになった気持ちを支えていただきました。

ご協力いただいたすべての方に感謝、感謝！です。

03 当院の新型コロナウイルス感染症に対する対応

～京都府新型コロナウイルス感染症入院医療コントロールセンターでの活動～

京都府内でのCOVID-19患者発生に伴い、入院病床の確保・病院間調整等を目的として京都府新型コロナウイルス感染症入院医療コントロールセンターが設置されました。コントロールセンターは行政機関・保健所と医療機関をつなぐハブとして機能し、入院・転院調整やクラスター対応に追われました。

重症患者やクラスターの発生などの影響で病床が一時不足し混乱することもありましたが、宿泊施設への入所や受入れ医療機関も徐々に増えたことから医療崩壊には至ることなく、一旦の収束を見ました。当院も早期より感染対応病棟・重症病床の整備を行なっていたため多くの患者の受け入れることができ、一定の役割は果たすことができました。今後は平時の病院機能を温存しながらも迅速な感染対応病床づくりが課題になるものと考えます。

今回、当院からは9名のDMAT隊員がコントロールセンターに交代で出務し、行政との連携を密に京都府基幹災害拠点病院としての役割を果たすことができました。感染症の終息まで引き続きご協力・ご支援よろしくお願い申し上げます。

Kenichiro Takashina

院長特任補佐
救命救急センター長

髙階 謙一郎

各診療科の取り組み

消化器内科

院長補佐、消化器内科部長・消化器センター長　**木村 浩之**

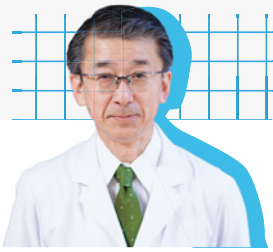
平素は病診連携で大変お世話になっており、どうもありがとうございます。先生方からのご紹介のおかげで、昨年度は、上部消化管内視鏡検査11,964件、下部消化管内視鏡検査2,919件、腹部超音波検査8,556件の実績をあげさせていただきました。

さて、今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、4月初めに消化器病学会、消化器内視鏡学会、超音波学会から相次いで、「不要不急の検査を控えるよう」とのステートメントが出されました。その影響で、4月、5月の検査件数は前年同期と比較し、上部内視鏡は65.7％、62.0％、下部内視鏡は62.7％、42.6％、腹部超音波は73.1％、76.5％と大きく落ち込みました。当科ではこの間、感染管理室の監修のもと、検査室内の換気システムの改善、感染防御衣の充実など、患者さんが安心して検査を受けられる体制を整えてまいりました。

非常事態宣言の解除に伴い、各学会から「感染に十分気を付けながら検査再開を」との新たなステートメントが出されましたので、5月末から通常の検査を再開しております。

3月に予定しておりました東福寺消化器フォーラムや各種病診連携会が中止となり、先生方には、当科医師の顔が見えづらく、ご不便をおかけしております。当科は4月から京都府立医大消化器内科大腸研究班から稲田 裕、肝臓研究班から石破 博、化学療法班から安田 知代を新たなスタッフとして迎え、先生方のご期待に応えるべくレベルアップを図っております。安心して患者さんをご紹介いただけますよう一層努力いたします。何卒よろしくお願い申し上げます。

循環器内科



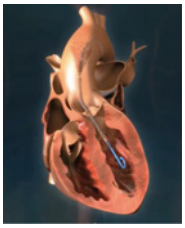
副院長・循環器内科部長　**沢田 尚久**

連携医療機関の皆様、COVID-19対応ご苦労様です。当院の新型コロナ対策は別掲のとおりですが、循環器内科ではWith / After Coronaの新日常に順応し改革を進めています。

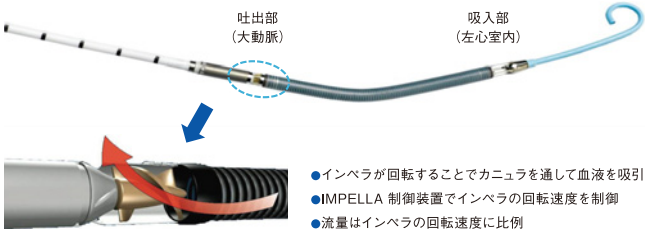
トピックスとして、今年2月よりImpella（左室脱血・上行大動脈送血カテーテル式ポンプ）を導入しました。5月末で3例の臨床経験ですが、従来の補助循環（IABP, PCPS）には無い効能効果で重症心不全・心原性ショック対応が可能となりました。また、Micra（リードレス・ペースメーカー）、Diamondback 360（冠動脈重度石灰化病変除去デバイス）なども新規導入し、患者さんの生命予後やQOL改善に努めています。勿論、頻脈性不整脈へのAblation、致死性不整脈・薬剤不応心不全へのICD / CRT /CRT-D留置、心臓リハビリパス刷新、急性四肢虚血への心臓血管外科とのhybrid手術、stent-less PCI等も拡充しています。

終末期血管病・透析・担癌・出血血栓の合併など複雑性指数が高い症例の治療は、診療科間の垣根が低い当院が最も優れた領域です。至適治療後、確実に紹介元にお戻り頂けます。躊躇せずご紹介頂ければ幸甚です。

制御装置



循環補助の原理



- インペラが回転することでカニュラを通して血液を吸引
- IMPELLA 制御装置でインペラの回転速度を制御
- 流量はインペラの回転速度に比例

より早く回転=より多くの流量

整形外科

コロナに勝つ! ロコモに勝つ! 整形外科アフターコロナへの戦い

院長補佐・整形外科 主任部長　**大澤 透**

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。新型コロナ禍により多くの診療施設で受診患者数が激減し、施設によってはスタッフの勤務を制限して対応するなど切り詰めているとの厳しい現状を伺っております。初診患者の完全紹介予約制を導入している当科も皆様と同様、非常に苦しい状況に置かれており、この事態を病診一丸となって乗り越えていかなければなりません。

今、貴施設には来院を控えていた患者さんが、少しづつ戻って来られていませんか。ステイホームで行動を自粛した高齢者の運動機能低下（いわゆるロコモティブ症候群：ロコモ）が危ぶまれます。毎週のように診ていたあの患者さんがいらした時、動きのぎこちなさや歩行能力の低下などに、かかりつけ医の先生方は敏感に気がつかれるかもしれません。機を逸さず私ども整形外科にご相談いただければ幸いです。患者さんの健康寿命を維持する為にも今こそ諸先生方の踏ん張り、ご協力が必要です。

私達は、コロナに対する感染対策を万全に整えてお待ちしております。

消化器外科・肝臓膵臓外科

副院長、消化器外科部長　**塩飽 保博**

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、外科学会から不急の手術は控えるとの指針が出たのが4月のことでした。当院もそれに従い、5月に於いては更なるパンデミックを予想し、外科医のコロナ診療へのシフトの可能性も考え、無症状の胆嚢結石症やソケイヘルニアの手術については控えることとしました。万一新型コロナ患者の手術が必要となった場合に備え、麻酔科を含めた対応マニュアルを作成し、十分感染対策を行いましたが、新型コロナ患者の手術症例は一例も認めませんでした。実際は5月大型連休中の自粛などにより、感染の広がりは思ったほどではありませんでしたが、それら良性疾患の患者さん自体が病院に来ることを控えられたこともあり、手術数の減少となりました。ただ、その間も悪性疾患の手術は通常通り行っており、安全に手術は行えております。今後も手術患者の新型コロナウイルス対策として、入退院支援センターでの入念な問診や必要に応じてPCR検査や胸部CT検査を行うなど万全の体制としております。現在は緊急事態宣言解除に伴い前述の手術を含め、外科手術フルオープンとしておりますので、従来通りのご紹介のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

救急科

救急科 部長　**竹上 徹郎**

新型コロナウイルス感染症の流行第一波は落ち着いてきましたが、我々は引き続き患者さまや医療従事者への感染を防ぎ、安全な救急医療を提供することがもっとも重要と考えています。

当院では病院全体でコロナのリスク評価を行っています。救急外来・病棟・手術室・血管造影室では、リスクに応じたゾーニング（隔離）を行い、個人防護具を装着することで万全の感染対策を常に行っています。必要な場合には院内でPCR検査を実施することで、迅速に診断出来る体制もとっています。

これまで当院は地域の皆様に高度な救命救急医療を提供してまいりました。このコロナの時代においても、救急医療が必要な患者さまに時期を逸することなく、安全に救急医療を提供することで貢献していきます。どうぞ安心して大事な患者さまをご紹介ください。安全に適切に診療させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

Information

Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

外来完全紹介予約制拡大のお知らせ

当院では地域医療支援病院としての機能を一層強化するため、整形外科をはじめとした完全紹介予約制を平成26年3月から実施させていただいているところであります。

今回当院では、本年6月22日（月）をもって予約のない新規患者さんの診療を再開しますが、医療機関からのご紹介患者さまをより優先して診療が行えるよう、下記の診療科においても同日から完全紹介予約制に移行させていただくこととなりました。

つきましては、初診患者さまをご紹介いただく際には、地域医療連携室へのFAX予約をご利用のうえご予約いただき、紹介状（診療情報提供書）持参のうえ受診されますようお願い申し上げます。

紹介状をお持ちであっても予約をお取りいただいていない場合は、当日の診療状況により長時間お待ちいただくか、もしくは後日に予約をお取りしたうえで改めてお越しいただく場合がございます。また、紹介状（診療情報提供書）のない患者さまは原則診療出来かねますので、ご留意いただきたく存じます。

以上、地域医療において外来を効率化して高度急性期医療を充実させてまいりますので、誠にお手数をおかけしますが、何とぞご理解ご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

今回新たに 完全予約制となる診療科	●糖尿病・内分泌内科 ●脳神経・脳卒中科 ●呼吸器内科 ●消化器外科 ●肝臓・膵臓外科 ●婦人科（産科を除く） ●眼科
既に完全紹介予約制を 実施している診療科	●整形外科 ●血液内科 ●腎臓内科・腎不全科 ●小児外科 ●呼吸器外科 ●心臓血管外科 ●心療内科 ●放射線治療科

なお、完全予約制でない診療科においても円滑な医療連携を行うため、新患ご紹介の際には、
FAX予約にご協力をお願いします。

京都第一赤十字病院
京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280
FAX.075-533-1282